

突発性難聴

患者様情報

来院されるまでの症状

- ・初診は2017年、首こりと前立腺肥大で長く通院している患者様です。
2020年10月、仕事のストレスが積み重なり左の耳が全く聞こえなくなってしまったそうです。
- ・耳鼻科で「突発性難聴」と診断されました。
状態としては「左耳のスケールアウト」「左耳閉塞感」「左耳周辺の感覚麻痺」です。
- ・突発性難聴を発症してから、すぐに秀鳳に来院されました。
＊スケールアウト：機械から出せる最大の音を出しても反応が得られないこと。

患 者 様	70 代 男性
初 診	2017 年 8 月
既 往 症	前立腺肥大、狭心症
他 の 症 状	首こり、肩こり、腰痛、

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・切経してみると、左の首肩の筋緊張があり
特に胸鎖乳突筋、耳下腺付近の筋緊張が顕著でした。
- ・筋緊張による血流不全が原因で、突発性難聴になったと
診立てました。
- ・「翳風」「角孫」「完骨」に置鍼し、首肩の筋緊張を
緩めていきました。
- ・更に「翳風」「耳門」に暖かいと感じるお灸を据え
耳周りの血流を促進させていきました。
- ・最後に胸鎖乳突筋を緩める鍼を「欠盆」に施しました。



■ 初診後の経過

- ・突発性難聴を発症してからは、週2日治療を継続
していきました。
- ・日を追うごとに、少しずつ聴力は回復していき
日常生活で気にならないほどに回復していきました。
- ・耳周辺の感覚麻痺もなくなってきているそうです。

使用した主要なツボ

- | | |
|-----------|-----------|
| ①翳風（エイフウ） | ②角孫（カクソン） |
| ③完骨（カンコツ） | ④欠盆（ケツボン） |

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・突発性難聴は30～60代の罹患率が高く、男女比は特にない疾患です。
年間では35,000人が罹患するといわれています。
原因不明の疾患で、過労やストレス、睡眠不足などで起こりやすいとされています。
- ・発症後、早期治療をしないと難聴や耳鳴りが残りやすいと言われています。
鍼灸は突発性難聴で治療成績を上げていますので、お困りの患者様は早めの治療をおすすめいたします。